

書 燈



(写真：読み聞かせびと養成講座)

「図書館好き」

中山 裕介

私は、子どものころから本が好きだ。小学生の時には、手を挙げて図書委員になった。4月に館長になり、3か月がたった。本に囲まれる日々、図書館に勤務する機会をありがたく思っている。

私の本好きの始まりは、絵本の読み聞かせである。中央図書館で実施している「読み聞かせびと養成講座」に参加した時、50年以上前に読み聞かせの会で聞いた「♪うれしいお話、たのしいお話、しーしーしーずかに聞きましょう♪」という歌の記憶がよみがえってきた。養成講座は大人気で、絵本の持ち方からはじまって、読むスピード、声のトーン、間の取り方など、とても奥の深い講座である。ここから巣立ったボランティアの方々の活動から、子どもたちの「知の足腰」が培われていくのがとても楽しみだ。

小学生の頃は、国語の時間も楽しみだった。職場で小学校の読書について話をしている時に、教科書に「ほりばたでのせたお客の紳士が言いました…いいえ夏みかんですよ」のようなフレーズがあったのだが、何の本か思い出せないと嘆いていたら、翌日、司書が「白いぼうし」（あまんきみこ作）の本をもって来てくれた。司書と一緒に仕事をするのは初めてだが、本について何でも相談できる司書は、図書館の大きな力だ。

職人技を感じたことは他にもある。中央図書館が発行している『KOBEの本棚—神戸ふるさと文庫だより—』最新号の「須磨の海水温泉場」の紹介文だ。在原行平の

伝承や正岡子規も療養のために利用したことを、昔の資料を用いて司書が解説している。読み手が更に調べたくなるようなキーワードが散りばめられており、湯治所の引札（広告）に書かれている「潮湯」を「もしほゆ」と読ませたのはなぜか、小説のなかで、海につかりに来る少女に思いをよせる主人公を描いた子規は、療養当時何歳だったのかなど、調べるのが楽しくてどんどん深みにはまっていく。司書の専門性と本への熱い想いが皆さんにもっと伝わる仕掛けを考えていきたい。

最後になるが、図書館のこれからを考えるにあたり、「ニューヨーク公共図書館」という映画を観た。市民にとってハードルの低い図書館の存在を活かして、市民のくらしの問題解決やビジネスサポートなどを幅広く行っている。今、神戸では、図書館が続々と新しくなっている。私にとって、図書館は、知的好奇心を満たしてくれて、少し元気づけられる場所である。それに加えて、市民が気軽に足を運ぶ場だからこそ、できること、図書館の可能性を広げていきたいと思っている。

知り合いの京都市職員が、「日本に京都があってよかったな」と言ってもらえるまちを目指していると熱く語っていた。私は、より多くの市民の皆さんから、「神戸にこんな図書館があってよかったな」と言ってもらえる図書館づくりを、スタッフとともに進めていきたい。一人でも多くの方の「本好き」「図書館好き」が目標である。
(中央図書館長)

コンピュータシステムの更改について

高橋 一郎

1. 経緯

2023年1月、神戸市立図書館のコンピュータシステムについて、全面的な更改を行った。

更改前のシステムである「神戸市図書館情報ネットワークシステム」(以下「旧システム」)は、公共図書館、大学図書館及び専門図書館という館種の異なる複数の図書館による共同運用を前提に、神戸市が独自に開発したクラッチシステムである。1995年9月、神戸市立図書館、神戸市外国語大学図書館及び神戸ファッション美術館ライブラリーによって共同運用が始まり、1996年4月には神戸市看護大学図書館が参加。2003年3月に神戸ファッション美術館ライブラリーが離脱した後は、市立図書館と二つの大学図書館による運用が続いた。

経費抑制のため、Ruby(プログラミング言語)やLinux OSといったライセンスフリーのツールを採用。また、多段階書誌階層に対応する等、機能においても他に類のない革新的なシステムであった。しかし、独自開発のため、個々の改修に要する負担が大きく、新たなニーズへの対応が遅れていた。

そこで、数年間の調査を経てパッケージシステムへの移行を決定し、2021年4月から総合評価落札方式により事業者を選定。同年7月にシステムの構築を始め、2023年1月の運用開始に至った。

一方、旧システムについては、2021年末を以って神戸市外国語大学学術情報センター(図書館)と神戸市看護大学図書館が各々個別システムへ移行。そして、2022年12月、神戸市立図書館による運用が終了することにより、27年余の歴史に幕を下ろした。

なお、今回のシステム更改に際しては、データの移行や機器の入れ替え、接続テスト等のため、2022年12月29日から翌年1月30日までの間、コンピュータシステムを用いた全てのサービスを休止し、全館を臨時休館とした。

2. サーバー及びネットワークの構成変更

旧システムでは、参加機関が共有する目録情報等は共有サーバーによって管理され、参加機関毎の固有情報である所蔵情報や利用者情報等については、各機関のサーバーにおいて個々に管理されていた。

市立図書館の場合は、中央図書館内にサーバーを設置し、専用回線を用いて外部に置かれた共有サーバーへ接続していた。地域図書館及び予約図書受取コーナー等のサービスポイントについては、中央図書館を介してシステムに接続されていた。

また、大学図書館との共同運用であったことから、2021年までは、主に国内の大学や研究機関の情報基盤であるSINET(学術情報ネットワーク)に加入し、NACSIS-CAT(国立情報学研究所所管の目録所在情報システム)との通信等に使用していた。

新たなシステムでは、全てのサーバーを外部のデータセンターに設置し、中央図書館、地域図書館及びサービスポイントは、専用回線によって一様にデータセンターと接続している。また、SINETは使用せず、外部との通信は、全てインターネットを利用している。

3. 目録情報の変更

今回のシステム更改においては、目録情報が大きく変更されることとなった。

旧システムのデータ形式は、NACSIS-CATが使用するCAT-Pフォーマットを元にしていて、記述方法は『日本目録規則1987年版改訂版』に準拠し、書誌単位によって、階層構造が表現されていた。また、典拠情報については、NACSIS-CAT同様、統一書名典拠と著者名典拠が登録されていた。

新たなシステムでは、公共図書館用パッケージシステムの常套であるTRC-MARCに類似したフォーマットが使用される。書誌は出版物理単位となり、書誌単位や書誌階層の概念を持たない。また、典拠情報についても、旧システムとは構成が異なる。

そこで、旧システムの目録情報のデータ形式を変換し、書誌を出版物理単位に再構築することによって、可能な限り全ての要素を新たなシステムへ移行した。また、統一書名典拠を「著作」(Work)、著者名典拠を「行為主体」(Agent)の典拠情報として移行し、FRBRや『日本目録規則2018年版』、さらにはIFLA LRMといった新しい情報資源組織法を取り入れた運用を想定している。

4. サービスの自動化

窓口の混雑緩和と非接触型サービスの実現を目的に、以下の機能追加を行った。

・予約図書受取棚

利用者自身により、専用の棚に用意された貸出前の予約資料をピックアップするための仕組み。棚の近くには、予約照会機(予約資料が用意されている棚の位置を確認するための専用端末)が設置される。棚からピックアップした資料を自動貸出機によって処理することにより、職員の手を介さずに予約図書の貸出手続きが完了する。導入館は、東灘図書館、名谷図書館及び西図書館。



・自動返却機

利用者が貸出中の資料を専用の投函口へ入れることによって、自動的に仮返却が行われる機能。仮返却により貸出中の冊数から減算されるため、利用者は、投函後すぐに新たな資料の貸出が可能。仮返却された資料は、後に職員が通常の返却処理を行う。導入館は、東灘図書館、灘図書館、北神図書館、名谷図書館及び西図書館。

5. その他の主な機能追加及び変更

利用者用の所蔵資料検索システム（OPAC）は、パソコンでの使用を想定したページに加え、スマートフォンによる利用に最適化したページを用意。館内には、タッチパネルによる操作に特化した端末も設置した。機能面では、検索結果の一覧に書誌毎の貸出状況を表示。さらに、希望する利用者が自身の貸出記録を保存し閲覧できる「貸出履歴」、お気に入りの資料を登録できる「本棚」、書影を分類順に並べて表示する「Web 書棚」などの機能が加わった。

予約システムには、複数の資料を予約する際に、借りる順番を予め指定できる「シリーズ予約」と、より早く用意できた任意の冊数の資料を借りることができる「いずれか予約」が追加された。

その他に、インターネットから登録情報を入力できる図書館カード事前申請、希望する利用者に対して送信される返却期限通知メール、スマートフォン版の図書館カード、マイナンバーカードによる貸出等の新機能がある。

また、時代の要請に応え、新たなシステムでは、利用者の登録情報から性別を削除した。

6. 課題

近年、図書館を取り巻く環境は、より一層変化の速度を速めている。その内容も、媒体の多様化やメタデータのオープン化といった図書館サービスに直結するものから、人口の推移や AI の普及のように社会全体に関わるものまで多様である。

こうした状況に対応するため、図書館サービスを支えるコンピュータシステムには、継続的な進化が必要とされるだろう。しかし、自治体が単独で行うシステム更改には限界がある。将来的には、産官学の垣根を超えた広範な連携が求められるのではないだろうか。彼のランガナタン（Shiyali Ramamrita Ranganathan, 1892-1972）が提唱した「図書館学の五法則」の一つ「図書館は成長する有機体である。」を形あるものとするためにも。

（利用サービス課）



〈新規採用職員エッセイ〉

人の学びを支えるために

峯松 敦彦

神戸市立中央図書館に採用され、数か月が経ちました。前職に引き続き図書館で司書として働けることに喜びを感じています。少しでも早く今の職場に慣れて活躍できるように、分からないことが出てくるたび、質問を繰り返す毎日です。数ある職業の中で、司書という仕事に巡り合えたことはとても誇らしく感じています。ただ、この職業を意識することになったのは、大学院の修了後でした。進路を考える中で、大学図書館に通い詰めていた頃に受けた職員の方々の心遣いが思い出として残っていたことや学びの場に親しみを感じていたこともあって司書になろうと思いました。学校や大学の図書館ではなく公共図書館を選択したのは、より多くの人々の学びを支えることができると考えたためです。働きながら資格を取得することは大変でしたが、勉強したことが職務に取り組む上での基盤になっていると感じます。

配属された市民サービスラインでは、主に障害者サービスを担当しています。身体が不自由で来館が難しい方に図書館資料を郵送で提供する郵送貸出、視覚が不自由な方に朗読によって資料を提供する対面朗読。こうしたサービスの事務を受け持ち、その円滑な提供に努めています。前職でも障害者サービスを担当していましたが、内容は全く異なるものだったため最初は戸惑いもありました。ですが、このサービスの幅の広さを体感することができ、とても良い経験をさせていただいていると感じています。

図書館には年代も特性も異なる様々な方が来館されます。そのため、利用される方の様子を見ながら、ゆっくり話したり、分かりやすい言葉に言い換えたりすることを心掛けています。誰もが理解できるように、館内の案内表示の見直しも積極的に進めています。これまでに得てきたものをもとに、利用される方にとって分かりやすく、より使いやすくなるように創意工夫を積み重ねていきたいと考えています。

せわしない日々の中でも、こうした気持ちや感覚を失うことなく持ち続けたいです。これから先も自分にできることを考えながら、司書としての職責を果たしていきたいと思えます。

（利用サービス課）

－「本」でつなぐ多文化交流事業による児童書寄贈－

企画調整局政策課の新規事業で、こうべ小学校（中央区）と上海道小学校（天津市）の児童達がお勧め本を贈りあい、互いに紹介するオンライン交流会が開催された（2022年10月12日、12月14日）。贈られた児童書25冊は中央図書館に寄贈いただき、受入後、こうべ小学校の児童からの紹介コメントと共に配架している。（利用サービス課係長・棟安）

－資料展示「鈴木商店と神戸の歴史・文化を再発見～図書館蔵書でたどる～」－

明治初期に神戸で創業した鈴木商店を題材にした舞台演劇の公演に合わせて、神戸市で鈴木商店関連事業が展開された。中央図書館では2023年4月15日～5月7日の間、双日株式会社、市立博物館、行財政局と連携し、KIITO 三宮図書館を会場に、鈴木よね氏から大正後期に中央図書館に寄贈された図書を展示、パネルにて鈴木商店の軌跡を紹介した。

（利用サービス課・北澤）

－臨時休館中のサービスについて－

2022年12月29日～2023年1月30日の臨時休館中、全ての返却ポストを利用不可とし、12月15日～28日の期間の貸出冊数を上限20冊、貸出期間を7週間とした。また、全館（床の張替工事を行う灘図書館除く）で、臨時休館中の一部の日に児童書・新聞・雑誌に限り、閲覧と一部座席の提供を行った。

（利用サービス課長・榊井）

－座席予約システムの導入について－

2023年1月31日のコンピュータシステム更改に合わせて、中央、東灘、北神図書館の閲覧室（自習席）に座席予約システムを導入した。名谷と西図書館では、館内での座席予約については先行導入していたが、新規導入館と同様、WEB予約も可能となった。より多くの方への席の提供や学校の長期休暇中の席確保のための行列解消にも期待できる。（総務課課長・村井）

－3月以降の新型コロナウイルス感染症対策－

新型コロナウイルス感染症におけるマスク着用は、国の方針を踏まえて2023年3月13日から図書館内においても個人の判断を基本とした。窓口職員は市の方針により着用を継続。5月8日以降は5類感染症への移行に伴い、館内のパーテーションを必要最低限に減数した。（利用サービス課長・榊井）

－自動車図書館の駐車場移転について－

2023年4月より、井吹台中公園の駐車場をセリオ光の広場に移転した。（利用サービス課係長・棟安）

－返却ポストの移設について－

地下鉄名谷駅と神戸電鉄鈴蘭台駅に設置している返却ポストの移設を行った。名谷駅は駅の改修工事に

伴い、健康館前に移設。鈴蘭台駅は空き缶等の誤投入対策として自動販売機から10メートルほど離れた場所に移設した。（総務課課長・村井）

－「こども本の森 神戸」1周年イベント参加－

2023年3月25日に東遊園地で開催。図書館からは「図書館バッグを作ろう」（82人）「出前お話し」（53人）を行った。天候も味方し、盛況だった。

（利用サービス課係長・棟安）

－地域館トピックス－

【親子で楽しむ図書館撮影会『ねえ、撮って！』】

2022年11月23日に、三宮図書館で開催された。撮影術の本の紹介などを行った後、キッズコーナーで目を引く黄色の球体本棚前で、ご自身のお子さんが過ごす様子を撮影してもらった。（総務課・大野）

－2023年度（令和5年度）蔵書点検日程－

システム更改による休館により実施せず。

－手帳－

人事	1.31	退職	土居 真紀（総務課）	
	2.27	退職	渋谷 敬一（総務課担当係長）	
	3.31	退職	福永 直子（総務課担当係長）	
			十都 恭子（総務課）（再任用後、4.20 葺合公民館へ転出）	
	3.31	会計年度任用職員退職	遠周 孝弘（総務課担当係長）	
4.1	人事異動		平野 和（総務課係長）	松本 考至（利用サービス課係長）
		（転入）	中山 裕介（中央図書館長）	宮本 佳純（総務課係長）
			阪本 和子（利用サービス課係長）	再任用
		（転出）	岡田 宏二（神戸高速鉄道取締役）	
			小椋 あゆみ	
				（教育委員会事務局学校教育部教科指導課学校図書係長）
4.1	会計年度任用職員採用		大石 敏雄（総務課係長）	津島 美貴男（総務課係長）
4.20	人事異動		乾 あさ子（総務課）	高橋 一郎（利用サービス課）
			本田 明香（総務課）	谷岡 史絵（利用サービス課）
			大野 穂波（総務課）	
		（転入）	新野 基美（総務課）	内田 恭平（総務課）
			（新規採用）	
			峯松 敦彦（利用サービス課）	篠原 吉乃（利用サービス課）
会議	1.17, 2.28, 3.23, 5.10, 5.30, 6.7, 7.25		中央図書館職員安全衛生委員会	
	2.2		近畿公共図書館協議会第2回理事会	
	2.17		第8期第1回神戸市立図書館協議会	
	3.9		第2回兵庫県立図書館協議会	
	6.29		兵庫県図書館協会理事会・総会	
	7.6		令和5年度全国公共図書館協議会総会	
休館	1.4～1.30		図書館システムリニューアル	
工事	1.8～1.28		中央図書館防犯カメラ設置工事	
	1.9～1.28		灘図書館床面改修工事	